

令和3年度 第1回南伊豆町地域公共交通会議 議事概要

開催日時 令和4年1月11日(火) 13:30~15:00

開催場所 南伊豆町役場1階 多目的ホール (湯けむりホール)

出席委員 19名

代理出席 1名

欠席委員 3名

会議内容

1 開会

事務局による開会宣言

2 会長挨拶

会長である南伊豆町長による挨拶

3 町公共交通の概要について

(説明者：事務局 資料No.1)

○町地域公共交通会議の概要について

○町の公共交通の概要について

- ・タクシー、バスについて概要説明
- ・町内公共交通に係る実績報告及び町の交通施策の概要説明
 - 高齢者通院バス料金助成
 - 障害者タクシー利用助成
 - へき地患者輸送事業
 - 高等学校等バス通学費補助
 - 小中学校児童生徒の通学費補助
 - 移動外出支援モデル事業

(質疑応答等)

- ・質疑等なし

4 協議事項

(1) 令和4年度南伊豆町自主運行バス事業について

(説明者：事務局 資料No.2)

○令和3年度 自主運行バス実績および令和4年度計画について

- ・全13系統(うち、2系統は自家用有償旅客運送)
- ・自主運行バス乗降調査結果より令和4年度の運行について提案(今年度の乗降調査は新型コロナウイルス感染症拡大により町の調査は実施せず、東海バスの乗降調査のみ実施)
- ・来年度の自主運行バス11路線の運行については、変更なしの為、継続運行を提案。
- ・路線ごとの利用者実績について説明

○令和3年度交通空白地解消事業(市町村運営有償運送:なのはな号)の実績について

- ・4月から11月までで、一條と青野地区でコミュニティバスを運行し、運行回数130回、利用者数617人、毎月77人程度の利用があり地域の移動手段として利用されました。
- ・青野地区及び一條地区については、継続条件をクリアしているため来年度も継続する計画としました。
- ・なのはな号については今年の3月に国土交通省中部運輸局静岡運輸支局様からの許可期間が切れるので更新申請を行いたいと考えております。
以上により、来年度の自主運行バス計画については、全ての系統について変更なしの継続運行としたいと考えております。

(質疑応答等)

委 員：資料No.2の7ページの下田・下賀茂線の平均乗車密度が0.1人となっていますが、0.5人以上利用がないと、補助金が出ないとお話があったがどうなりますか？

事 務 局：系統番号1番の下田下賀茂線はバスダイヤの時刻的には下田駅を20時発で下賀茂に20時23分着のバスでございます。こちらについてバスの乗降調査を元にして、県の補助金申請の書類を作成するにあたって、20時のバスの利用者の多くが高校生であり新型コロナウイルス感染症拡大で部活動が中止等々の影響を受けたため利用者が少なかったと考えられます。現在は、利用者も回復しており廃止にするような路線ではございません。

委員：資料No.3のなのはな号について、現在廃止中の吉田地区は集落内で助け合っていると報告があった。青野地区や一條地区では赤字が出ているが、吉田地区を運行していた場合の赤字額はいくらか？

事務局：吉田地区は区長さんと話し合っただけで月に一回の運行であった。赤字額については、今すぐに計算できないが黒字にはなっておりません。

委員：吉田地区方式でお互いに助け合っただけで、マイカーを出して助け合うというのは吉田に限らず行っている。実態の調査等は行っているか？

事務局：どのように助け合っているかは確認しておりませんが、バスを利用していない方は、車を所有しており、助け合っていると思われます。また福祉介護課で行っているボランティア輸送も選択肢としてあります。

委員：調査を行ってみてはどうか？条件が揃えば地域のカーシェアリングをやってみたいという人もいるのではないかと、町の負担も少なくなるのではないかと？

事務局：調査は検討する。町の移動施策とも重複する箇所もあるので、令和4年度～5年度にかけて検証はする必要があると考えております。

町長：実際に公共交通移動をするとなると、目的が決まっています。病院や買い物などが主です。年金の支給日に年金を降ろしに行く等の細かいところはなかなかカバーできません。国の制度でも集落支援委員という制度があり、集落の実情に応じてサポートをするという制度も少しずつ考えていき、買い物だけでなく、課題解決のためにお手伝いいただくことも、メリットがあれば挑戦していきます。

○承認事項

議長が以上の事項につき、原案どおりでよいか委員に諮り、賛成多数で承認された。

(2) 地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)について

(説明者：静岡県地域交通課 浦田氏 資料No.4)

○地域間幹線系統とは

○静岡県の地域間幹線系統評価基準について

○令和3年度の評価結果について

- ・南伊豆町内で対象となる石廊崎線はB評価（地域間幹線系統として適した運行）であった

(説明者：東海自動車株式会社 和泉澤氏 資料No.5)

○地域間幹線系統の継続について

- ・当該路線は、伊豆急行の下田駅から南伊豆町の休暇村を經由し石廊崎オーシャンパークまでを結ぶ路線であり、南伊豆町の南崎地区から下田市内への通院、通学や下田駅から南伊豆方面への観光利用、また町内の小学生、中学生の通学の足として利用されている。
- ・下田市と南伊豆町の境となる「銭瓶峠」を越える利用は、当該路線の一日当たりの利用人数の半数近くになる。観光地であることから、観光客の利用もあり、通院等の利用も多く当該路線が高齢化率の高い南伊豆地区の住民の足として機能していることが分かる。
- ・下田市と南伊豆町を結ぶ路線であり、市町を跨ぐ利用が全体の5割となっている。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け収支が大幅に悪化しており回復までは長期間かかる見込みであることから、引き続き国庫補助によるご支援をいただきたい。・東海バスとしても、利用者の利便性向上の為、本年3月から交通系ICカード決済機器の導入をします。

町 長：ICカードは高齢者がお金を払うときに財布を出して払うのが大変なのでICカードを使えば簡単に乗降できるという形は大変すばらしいと感じますが、ICカード自体は、なかなか売っていない。この辺ですと、伊東駅等で販売しているが伊東駅まで買いに行ってくださいとは言えないので、何とかして、東海バスさんの方で販売は可能となりますか？

東海バス：引き続き、検討してまいります。

(説明者：事務局 資料No.5)

○町の地域間幹線系統の利用促進策について

- ・小学生及び中学生の通学補助
- ・高校生の通学補助
- ・高齢者の通院時のバス利用料金補助
- ・観光チラシにバスの案内を記載
- ・観光施設にバス情報を掲示

(質疑応答等)

地域交通課：東海バスさまの増収策についてお伺いいたします。①～⑩まで各種増収策が提示されているが、その中の⑩MaaS（マース）への参画（デジタルフリーパスの取り扱い）とありますが、それについてお伺いしたいです。通常フリー切符を買おうとすると一番近いのが伊豆急下田駅となると思われませんが、デジタルフリーパスはどこで買えるようになるのでしょうか？

東海バス：スマートフォンをお持ちの方であれば「EMo t」というアプリケーションで購入することが可能です。12月からは全線フリー切符等広めていく予定です。

地域交通課：そうすると東京に住んでいる若者などスマホをお使いの方であれば家に居ながらにして東海バスさんのフリー切符を買ってそれから踊り子号の切符をスマホで買えば一切、窓口に立ち寄ることなくそのまま石廊崎の方に行けるということになりますし、役場から下田駅まで660円ですので、往復で1,320円です。ここには「下田南伊豆2日券」というのがございますので、そちらが2,100円で売っているのですが、下田に近い下賀茂の方でも、その2日券を使えば、今日と明日下田に往復しなければならぬ方ですとお得に移動できるということですので、非常に素晴らしいと思いました。ありがとうございました。

委員：資料No.1の「路線バス」について東海バスが自ら営業として運行している路線とあるが、町内だとどこの路線が路線バス運行（黒字路線）にあたりますか？

東海バス：ほとんどございません。町内運行の一部路線でございます。

下田駅～上賀茂は高校生利用があるため黒字です。こちらはもともと自主運行バス路線でしたが、営業路線へ戻していただきました。

委員：ということは今後、自主運行バスへ変更となる場合もあるということでしょうか？

東海バス：その可能性は、ゼロではないです。

○承認事項

議長が以上の事項につき、原案どおりでよいか委員に諮り、賛成多数で承認された。

5 報告事項

(1) バス停留所安全確保対策の実施について

(説明者：国土交通省 静岡運輸支局 風岡氏 資料No.6)

○バス停の安全性確保対策について

- ・危険なバス停については、安全対策を取りながら移動できるところは移動していく。

(2) 南中小学校のバスダイヤ変更要望の件

(説明者：事務局 資料No.2)

○南中小学校の校長先生から要望書が提出された。

朝の下田方面に帰る児童のバスダイヤが合わないため要望書が提出された。下賀茂の老人ホーム周辺、青野川の対岸に住む児童は自宅から学校までの距離が3～4キロ程ある。これまでは、徒歩での通学であったが、児童の負担軽減の為に、通学定期の対象が4キロから2キロへ変更した為、バス通学の対象となった。要望書は、水曜日のダイヤ変更を求めている。町内の小中学校は、毎週水曜日は5時限目で終了し早く帰るが、下田方面のバス時刻が合わずに利用できない状況の為、ダイヤ変更を要望した。

東海バス：本社と協議し対応できるよう時刻表の改善に向けて調整しております。3月には、JRのダイヤ改正もあり連動して伊豆急行のダイヤも変更になります。これらに合わせて、バスダイヤも変更するものです。3月にはしっかりとした時刻表をお示しします。

(3) 交通系ICカードシステム導入事業費補助金

(説明者：事務局)

- 伊豆半島内の東海バスのすべての車両に交通系ICカード決済機器を導入する。町も地方創生臨時交付金を活用し、東海バスを支援する。

～補足事項～

(説明者：国土交通省 静岡運輸支局 風岡氏 追加資料)

○乗合バス及びタクシー輸送人員について

- ・国の方でも様々な支援を行っているが、町民の皆様にも利用促進にご協力をお願いします。

(説明者：伊豆急東海タクシー株式会社 内藤氏)

○タクシー事業について

- ・ただいま運輸支局様からお話がありましたとおり、弊社は昨年度まで下賀茂の営業所の方にタクシーを駐留しておりましたが、コロナウイルスの影響もございまして、運転手さんの人件費も抛出出来ないほど、収入が減ってしまいました。毎日ではないですが、駐留させていただいている状況です。また、南伊豆町へは下田の営業所より皆様を輸送させていただきます。したがって呼びだていただくと20分～30分ほどの時間で皆様をお迎えに行くようになっている。また、地方の特性として片道輸送ということが多く、利益を圧迫している。また、法的な通達が出まして伊豆交通圏は、準特定地域に指定され、三年間は車両が増やせず、営業所も増やせない状況になっており、南伊豆町の方で実証実験をやられていると思うが、協力が出来ない状況になっている。タクシー輸送についてもご理解ご協力をお願いしたい。

教 育 長：要望となりますが、先ほどの南中小学校のバスダイヤの件ですが大変費用が掛かると思うが、対象児童が20人いるため是非ダイヤの改正をお願いしたい。

(質疑応答等)

委 員：今、自動運転等が盛んになっている。私は高校まではバスを利用していたが、それから一度も利用していない。その時間帯によって小学生、中学生、高校生あるいは病院へ行く等で利用している。限られた人が利用しているため、データがあると思う。自動運転のモデル地区等があれば応募してみてもどうか？

地域交通課：今年度予定していたのは伊東市の伊豆高原、松崎町、掛川市を予定しており、松崎は山間部の狭い道に行く実証実験を予定しており、伊豆高原は遠隔操作、伊豆高原駅の中に職員がいて、その職員が、離れて走っているバスを制御する形でやろうとしています。掛川では商店街ですね、掛川城と駅をつなぐ1キロほどの道路で夜間に自動運転が出来るかということで実証実験を予定して

おりました。そのような形で都市部や山間地や商店街などいろいろな所で

実現できないかということで実証実験を行っている段階。しかし伊豆高原で人と接触する事案があったため、現在実験を見合わせているのが現状である。委員の意見はとてもありがたいが、バスとして自動運転を導入するまでには、まだまだ時間が必要であり、実証実験を積んでいく必要があります。現時点ではオリンピックの自動運転事故もあったので、なかなか持ってきてすぐに運行とはなりません。

(先ほどの南中小学校の要望に関連して)

委員：高学年は良いが、低学年は歩いて帰る。ぜひ水曜日だけとは言わずに平日増便や変更等を検討していただけないか？

事務局：いずれにしても、学校長から要望をうけているので、東海バスと協議をして、学校長に回答します。

6 閉会 15:00